

北海道建設業審議会議事概要

- 1 日 時：平成30年11月19日（月）14時00分～
- 2 場 所：北海道庁赤れんが庁舎 2階1号会議室
- 3 出席者：別紙出席者名簿のとおり
- 4 議事次第
 - (1) 開 会
 - (2) 挨 拶 北海道建設部長
 - (3) 議 事
 - 1) 北海道建設業審議会会長・副会長の互選について
 - 2) 建設業の現状について
 - 3) 北海道建設産業支援プランについて
 - 4) 「公共工事の品質確保に関する北海道の取組方針」に基づく取組状況について
 - 5) 「建設工事従事者の安全及び健康の確保に関する北海道計画」について
 - (4) その他
 - (5) 閉 会
- 6 議事概要
 - (1) 北海道建設業審議会会長・副会長の互選について
石黒委員を会長に、安達委員を副会長に選出
 - (2) 建設業の現状について
資料1に基づき、事務局から説明
 - (3) 北海道建設産業支援プランについて
資料2に基づき、事務局から説明
 - (4) 「公共工事の品質確保に関する北海道の取組方針」に基づく取組状況について
資料3に基づき、事務局から説明
 - (5) 「建設工事従事者の安全及び健康の確保の推進に関する北海道計画」について
資料4に基づき、事務局から説明

【主な意見等（要旨）】

○ 小松委員

【議題（４）に関して】

- ・資料３－１の４ページ。工事に関する速やかな契約締結の実施に向け、不調・不落対策として見積活用方式が挙げられているが、工事全体の不調不落時のみ見積りを採用するのではなく、個別の現場の状況に応じて、個別工事の見積を採用するなど、より一層適正な利潤確保に努めてほしい。
- ・同７ページ。フレックス工期について。工期の自由度を高めるということでは配慮をいただいたと考えているが、例えば工期が１２月にずれ込んだ場合、寒冷期に適した材料を使えるようにするなど、出来るだけ現場の要望がかなうような配慮が必要。
- ・同１１ページ。設計変更確認会議の試行ということで、工事書類の簡素化等について確認共有されるということだが、中々簡素化とならない状況である。こうしたことについても、出来るだけ実効性を高めるよう検討してもらいたい。

【議題（５）に関して】

- ・資料４－５の中で鉄筋業協同組合さんから冬季施工に係わる養生経費の記述を追加してほしいという要望に対して、積雪寒冷地である本道の施工の実態等的確に反映するとの記述が加わったが、例えば舗装工事では、雪が降った場合は精度の高い除雪をしなければならず、たいへん人手もお金もかかっている。積雪寒冷地である本道の実態に合わせ、北海道が持つ単価歩掛を適切に反映してもらいたい。

○ 川島委員

【議題（４）に関して】

- ・データから見ると、４、５、６の第１四半期の工事の稼働量というのが、依然としてかなり少ない。この四半期の稼働をもっと上げないと、生産性の向上、あるいは平準化にまだまだつながらない。この四半期にもっと仕事が出るよう、施工できるよう配慮いただきたい。国・道はゼロ国債、ゼロ道債があるが、市町村はまだまだ少ない。そこも含め平準化を図るべき。
- ・フレックス工期は使い勝手が悪い。繰越手続・繰越制度について、最近では財務省等も弾力的に対応しているという話を聞いているが、３月・５月の時点での繰越手続がまだまだであり、弾力的・強力に推し進めてもらいたい。

【「担い手不足」対策について】

- ・根本的な問題の一つに、業界への供給が構造的に少ないのではないかと。
- ・工業高校の建設科の学生、土木や建築の学科が我々建設業への大きな供給元だが、学生数が一時の半分くらいになっていると思われる。工業高校そのものが無くなっている地域もあり、決定的に供給が不足している。
- ・現在、実情としては普通高校の生徒を雇いOJTで教育しているが、やはり工業高校へ３年間行くよりも養成期間がかかるので、可能であれば工業高校の建設系の間口について、例えば学生数を１０年間増やすなど、根本的な政策を願いたい。

○ 吉本委員

【「担い手不足」対策について】

- ・資料２－６に小中高生等に対する普及啓発というのがあり、魅力発信セミナーというのも行われているようだが、特に入職者の対象となる高校生にスポットを当てて、

職場環境の改善をPRしてもらいたい。

○ 山中委員

【「担い手不足」対策について】

・資料1の2ページに、建設業就業者の年齢構成が示されているが、この年齢構成では、50歳から上がひとかたまりになっている。建設業の高齢化の状況を把握するため、50歳以上の細かな年齢構成がわかるような表記を願いたい。

○ 堤 委員

【「担い手不足」対策について】

・経団連の業界別の新卒の平均月収というのがあり、業種の中で建設業が一番高かった
ので、建設業に魅力があるかもしれない。
・不動産鑑定士協会では鑑定士の不足に対して、漫画を作り冊子を配っているが、このように学生の目線でいろいろな対策が必要なのではないか。

【議題（4）について】

・一人親方が保険に入らないということには、資金不足の問題があるのかと思われる。

○ 犬嶋委員

【「担い手不足」対策について】

・担い手確保が重要だということはあるとしても、支援事業の補助金が700万であったり、小中高生に対しての啓発が300万とか、非常に底が薄いように思える。
・ふれあい展から女性活躍推進セミナー等々、色々な事を行うには非常に厳しい金額ではないか。
・小・中・高に対してだけではなく、大学まで含め作業員、技術員の確保に向けた補助金を手厚くしていただきたい。